

令和7年度庄原市学校図書館研修会 兼 学校司書研修会

- 日 時：令和7年7月2日（水） 14：00～16：30
- 場 所：庄原市ふれあいセンター
- 対象者：庄原市内各小・中学校の図書館担当者、学校司書等

目 的

児童生徒の主体的・意欲的な学習活動や読書活動を促進する学校図書館づくりについて研修することを通して、学校図書館担当者と学校司書が連携し、図書館の活用と児童生徒の読書活動の充実を図る。

講話「庄原市の子供の読書活動推進の現状」

講話・協議「自校の読書推進の取組について」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 延近 恵



- ◆広島県児童生徒学習意識調査の読書に関する結果を周知した。
 - ・1か月に本を3冊以上読む児童生徒の割合は小中学校とも県平均より高く推移しているが、1か月に本を1冊も読まない児童生徒も依然として一定数いる。
- ◆学校・家庭・地域と連携した読書活動推進の取組等を交流した。
 - ・子供の読書習慣を形成するには、家庭や地域との連携が不可欠であり、参観日や保護者会等の機会を捉え、保護者にも読書のおもしろさを啓発していく。

講話・演習 「児童生徒の読書習慣の形成につながる魅力的な読書推進活動」

広島県立図書館 主任司書 松本 佳奈

- ◆ビブリオバトルのルールや進め方を知るとともに、実際にミニビブリオバトルを行った。
 - ・第69回学校読書調査報告によると、本を読み始めるきっかけとして「人にすすめられたとき」と回答した児童生徒は多く（第3位）、本との出会いの場としてビブリオバトルは有効である。
 - ・ビブリオバトルは、人に本を進める手法の1つであり、「人を通して本を知る。本を通して人を知る。」がキャッチコピーである。
 - ・学校でビブリオバトルを行うときには、参加者全員が楽しめるような配慮をしたり、紹介された本の展示や貸出をしたりすると、読書推進の効果が高い。



【参加者の感想】

- ◇初めてビブリオバトルをした。ドキドキしたが、どの本も読みたくなり、とても楽しかった。子供たちにも是非体験させたい。
- ◇様々なデジタル機器が普及して子供たちの関心がたくさんものにある中で、読書をしようと思うためには、読書の楽しさを知ってもらうことが大切だと改めて感じた。
- ◇学校司書との連携をもっと充実させたいと感じた。学校司書の思いも取り入れ、やってみたいことに共にチャレンジしながら、多様なアプローチで読書活動の充実を図っていきたい。